

平成 23 年度後期看護学部授業評価のまとめ

1. 講義・演習について

全体表から、授業に関心があった(評価値④～⑥)が 62.7%、時期・学年が適切であった(②～④)は 98.8%、予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ(④～⑥)は 59.2%で、授業が難しい(④～⑤)29.7%、到達目標を達成できた(④～⑥) 72.5%、満足(④～⑥)77.2%であった。元々、授業に関心があった、と回答したものと、予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ学生が 6 割であり、そのように回答しなかったものは 4 割である。各教員の授業に関する自己点検票に、予習や復習を促すことについて、今後、改善が必要である、と記載している教員が多い。学習への動機付けをより一層強化することが必要である。また、到達度(④～⑥)では、7 割が達成できた、と回答しているが、3 割の学生は講義内容の理解にいたっていない状況が推測される。今後そのような学生へ学習の動機付けを行い、理解できるような教育方法を検討していく。

2. 実習について

全体表から、真剣な態度で取り組んだ(④～⑥)が 98.4%、主体的に取り組んだ(④～⑥)が 96.7%、予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ(④～⑥)95.5%、学習目的・目標が達成できた(④～⑥) 94.2%、満足(④～⑥) 93.7%であった。9 割以上が肯定的な回答をしている。学生に合わせた実習指導を受け、学習の到達度が高く、満足度が高い。実習については学内での教員の勉強会や臨地実習協力施設との検討会など地道な取り組みの成果と考えている。

教員の自己点検票から、事前・事後学習や実習記録に時間を要し、睡眠不足や疲労から体調を崩し、欠席する学生も少なくないことから体調管理への支援がより一層、必要である。

3. 卒業研究について

全体的に、教員より丁寧な指導を受け、満足度が高い結果である。今後も学生一人一人に合わせて、指導していくことが必要である。